「教育費や奨学金制度に関するアンケート」
報告書
（最終版）

2016 年 12 月

日本生活協同組合連合会
総合運営本部 政策企画部

調査の概要

1. 調査の目的

近年、世帯収入が減少傾向にある一方で、子どもにかかる教育費は増加傾向にあり、大学生の約半数が何らかの奨学金を利用していると言われています。また最近、奨学金をめぐって、返済が難しいために自己破産する、奨学金の返済があるために結婚をためらうなど、社会的な問題にもなっています。

日本生協連では、子どもを持つ人が多い生協の組合員に対し、家庭における教育費負担への意識、現在の奨学金制度への理解、意識、要望を明らかにすることで、社会的に問題提起をする基礎資料とするべく「教育費や奨学金制度に関するアンケート」を実施しました。

2. 実施方法

Web 上に「教育費や奨学金制度に関するアンケート」サイト（スマートフォン、パソコン両方に対応）を設置し、インターネット調査で行いました（実施期間：2016 年 9 月 21 日～11 月 30 日）。

3. 調査対象

（1）県連・会員生協の学習活動と結びつけた調査

全国の生協において、組合員の学習活動などとあわせて、組合員向け諸会議資料やメールマガジンなどで、ご協力をお願いしました。

（2）インターネットモニターによる調査

上記呼びかけとともに、日本生協連のインターネットモニター（全国約 4,000 人）に、E メール配信し、ご協力をお願いしました。

4. 回答状況

9 月 21 日～11 月 30 日までに、3,673 件の回答をいただき、そのうちの 3,549 件を有効回答とし、分析を行いました。

調査結果の特徴

１．大学進学費用や奨学金をめぐる実情について、「知っている」か「知らない」かを上の子どもの就学状況別に聞いたところ、「知らない」と答えた割合が最も高くなったのは、すべての項目で上の子どもが「小学生」の親となった。一方、上の子どもが「短大生／専門学校生／大学生／大学院生」になると、「知らない」と答えた割合が最も低くなった【Q11】(p5　2(2))

２．大学進学費用や奨学金をめぐる実情について、子どもが奨学金を利用している（していた）回答者の方が「知っている」と答えた割合が高かった。特に、「現在、大学生の約半数が奨学金を利用している」と「奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない」は、子どもが奨学金を利用している（していた）回答者の方が、そうではない回答者と比べて「知っている」と回答した割合が 20%以上高くなっている【Q11】(p6　2(3))

３．　子どもの教育費用の負担について、今後の負担感を上の子どもの就学状況別に聞いたところ、「就学前」～「短大生／専門学校生／大学生／大学院生」において 80%以上が「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」と答えた。特に、上の子が「高校生／高専生」の場合は 90%を超えた【Q16】(p8　4(1))

４．子どもの教育費用の今後の負担について、兄弟数が多くなると、「かなり負担に感じる」と答える割合が高くなる【Q16】(p9　4(3))

５．子どもの奨学金の利用状況を回答者（本人）の利用別に見たところ、回答者本人が利用していた方が子供も奨学金を利用する傾向にあることがわかった【Q12、Q18】(p11　5(3))

６．子どもの奨学金の利用状況を地域別に見たところ、地域間格差が大きく見られた。首都圏（東京・埼玉・千葉・神奈川）では奨学金利用の割合が 25%程度である一方、九州では約半数が奨学金を利用していた【Q18】(p11　5(2))

７．自由記入欄には、回答者 3,549 人のうち 1,864 人（回答者の 52.5%）が何らかの意見・考えを記入しており、教育費や奨学金制度のあり方に高い関心があることがうかがえる【Q21】(p13　6)

回答者の属性

9 月 21 日～11 月 30 日までに、3,673 件の回答をいただき、そのうちの 3,549 件を有効回答とし、分析を行いました。中間報告と比較し、回答者の性別・年代・年収・子どもの人数については割合に大きな変動はありませんでした。

● 回答者の性別【Ｑ１】

Ｑ１：回答者の性別

女性	男性
3336 (94.0%)	213 (6.0%)

● 回答者の年代【Ｑ２】

50 代（「50～54 歳」、「55～59 歳」合計）が 28.5%と最も多く、40 代・60 代が 25.0%と続く。

Ｑ２：回答者の年代

～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
71(2.0%)	187(5.3%)	244(6.9%)	412(11.6%)	474(13.4%)
50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
570(16.1%)	441(12.4%)	475(13.4%)	411(11.6%)	264(7.4%)

● 回答者の年収【Ｑ６】

年収を記載した 3,028 人の年収を分類すると、「400～600 万円未満」が最も多く、「200～400 万円未満」、「600～800 万円未満」と続く。

Ｑ６：回答者の年収

200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満
137(4.5%)	699(23.1%)	788(26.0%)	632(20.9%)
800～1000万円未満	1000～1200万円未満	1200～1400万円未満	1400万円以上
407(13.4%)	215(7.1%)	71(2.3%)	79(2.6%)

● 回答者の子どもの人数【Ｑ４】

子どもが「いる」と回答したのは、回答者のうち 90%を超えた。

Ｑ４：子どもの有無と人数

いる/1人	いる/2人	いる/3人	いる/4人以上	いない
716(20.2%)	1748(49.3%)	714(20.1%)	97(2.7%)	274(7.7%)

● お住まい【Ｑ３】

Ｑ３：都道府県別　有効回答数（件）

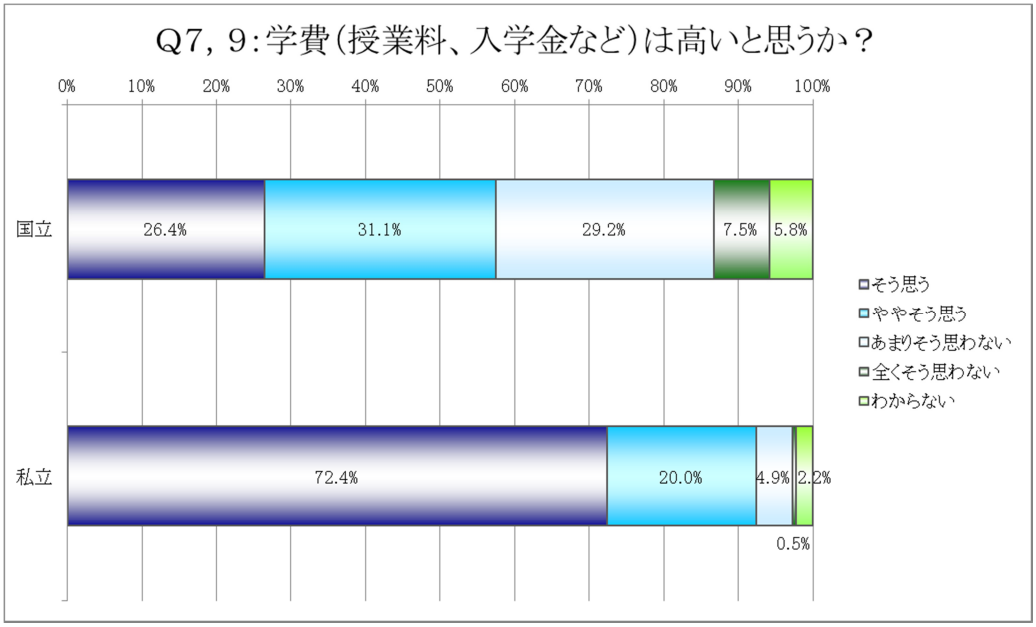
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
164	24	45	142	14	22	16	45
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
31	25	137	112	231	163	20	18
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
28	12	16	44	36	64	63	39
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
21	96	443	878	25	9	7	15
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
35	51	26	13	13	37	18	207
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
16	19	21	29	0	53	6	3549

調査結果

１．大学の学費に関する意識

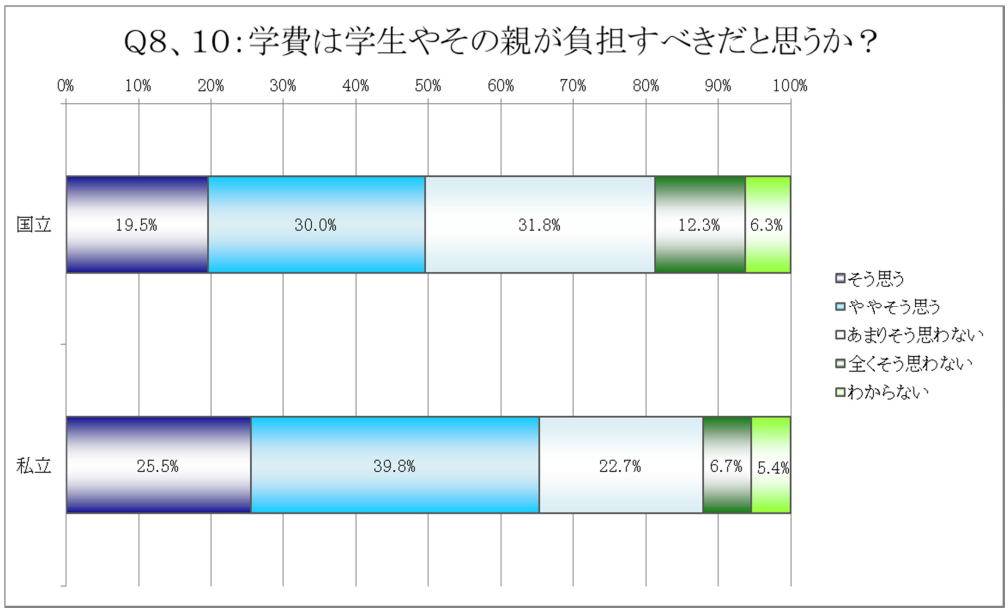
（1）学費（授業料、入学金など）の高さの意識【Ｑ７、Ｑ９】

大学の学費（授業料、入学金など）の高さに関する意識について、「高いと思う（そう思う）」と回答した人は、国立大学の 26.4%に対し私立大学は 72.4%と多く、国立大学と私立大学に対して大きく異なる認識となった。



（2）学費（授業料、入学金など）の負担の意識【Ｑ８、Ｑ１０】

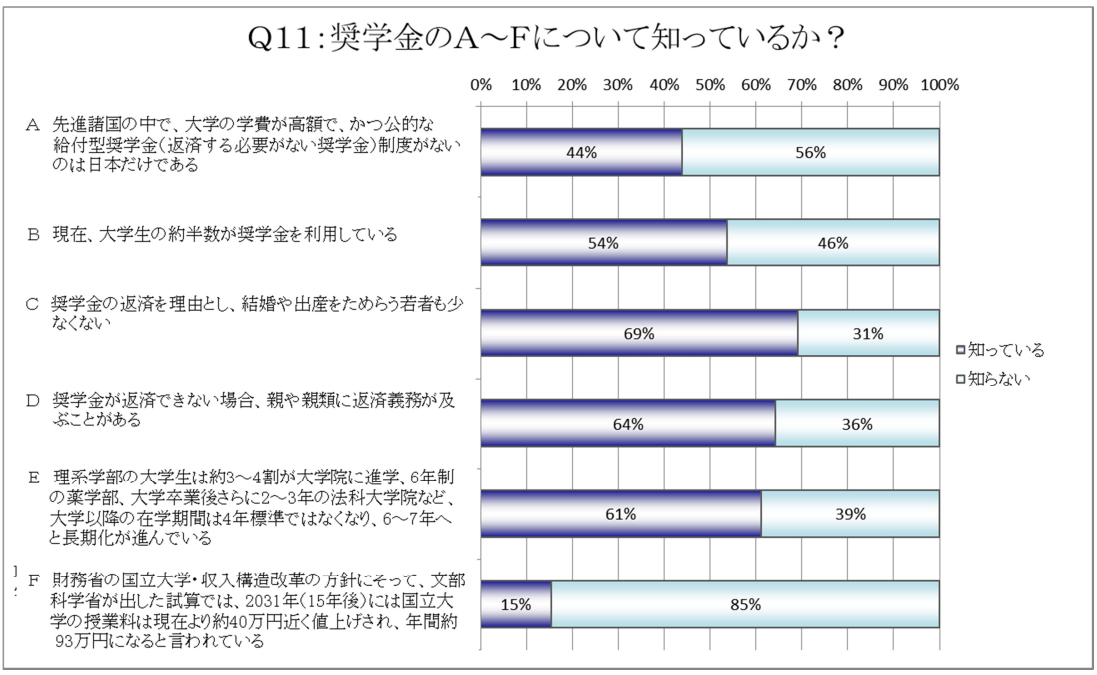
大学の学費（授業料、入学金など）の負担は、国や自治体ではなく学生やその親が負担すべきかとの問いに対し、国立大学は「そう思う」「ややそう思う」をあわせると 49.5%、私立大学は 65.3%と、私立大学の方が自己負担の意識が高くなっていた。



２．奨学金に関する意識

（１）奨学金に関する情報の認知【Ｑ１１】

奨学金に関連し、以下Ａ～Ｆの内容を知っているか聞いたところ、Ｆ「国の試算では国立大学の授業料が 15 年後に 40 万円近く値上げされること」について「知らない」が 85%と、ほとんど知られていなかった。また、Ａ「先進諸国の中で公的な給付型奨学金がないのは日本だけ」についても「知らない」が 56%と半数を超えていた。その他の項目についても「知らない」が３～４割あった。



（２）奨学金に関する情報の認知（上の子の就学状況別）【Ｑ１１】

奨学金に関連したＡ～Ｆの認知を上の子の就学状況別にみると、各項目とも、上の子が「小学生」の回答者で「知らない」と回答する割合が高い傾向にあった。一方、上の子が「短大生／専門学校生／大学生／大学院生」の場合、「知らない」と回答する割合が最も低くなった。

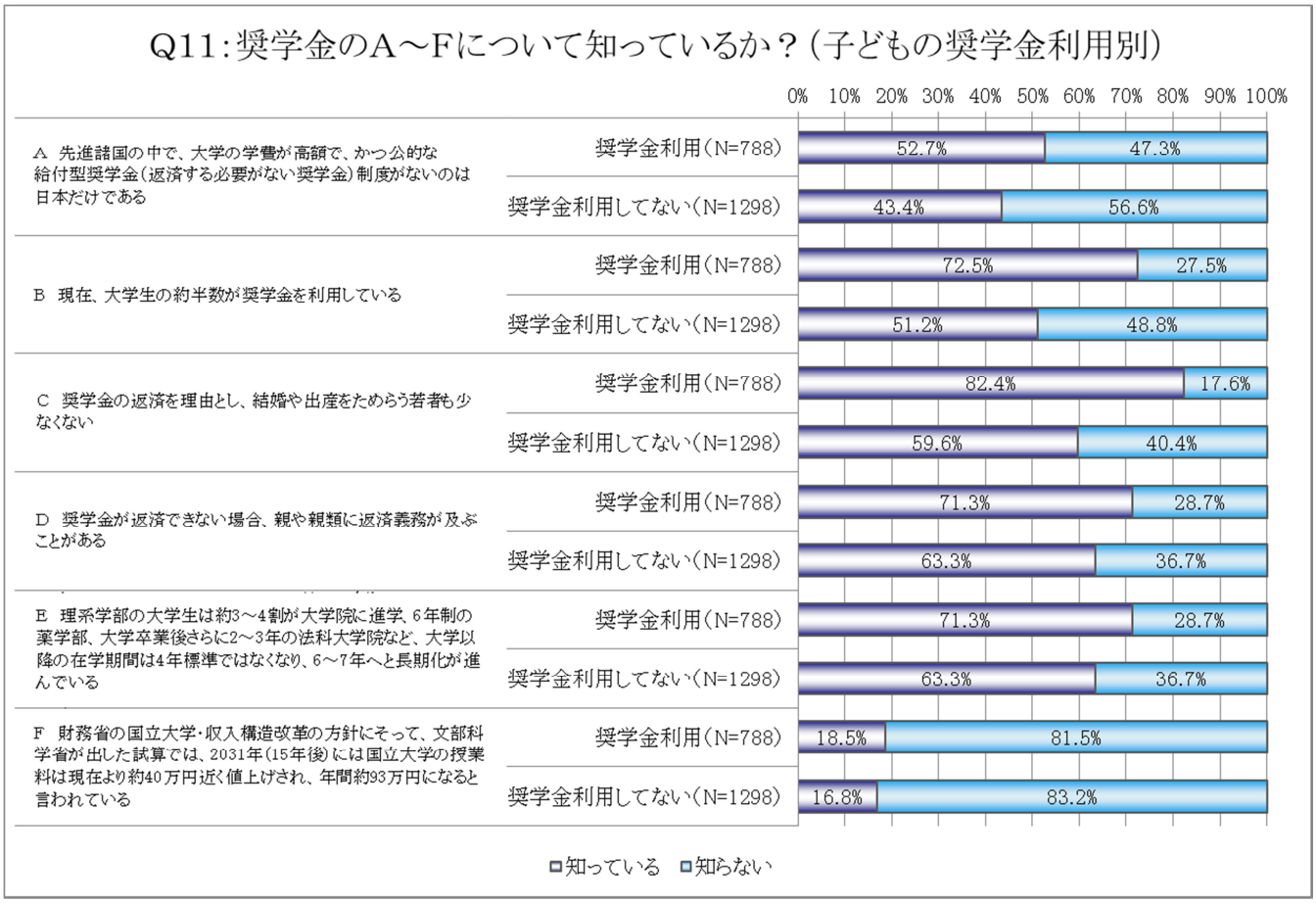
Q11:奨学金に関連した情報について、「知らない」と答えた割合（上の子の就学状況別）

	就学前 (N=343)	小学生 (N=359)	中学生 (N=165)	高校生 高専生 (N=227)	短大生 専門学校生 大学生 大学院生 (N=366)	社会人 (N=1675)
A 先進諸国の中で、大学の学費が高額で、かつ公的な給付型奨学金（返済する必要がない奨学金）制度がないのは日本だけである	61.5%	64.9%	61.8%	52.4%	41.0%	54.9%
B 現在、大学生の約半数が奨学金を利用している	54.8%	64.9%	56.4%	33.5%	25.1%	44.2%
C 奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない	32.9%	37.3%	34.5%	26.4%	21.0%	31.0%
D 奨学金が返済できない場合、親や親類に返済義務が及ぶことがある	41.7%	42.1%	37.0%	31.3%	21.3%	35.6%
E 理系学部の大学生は約3～4割が大学院に進学、6年制の薬学部、大学卒業後さらに2～3年の法科大学院など、大学以降の在学期間は4年標準ではなくなり、6～7年へと長期化が進んでいる	48.4%	56.8%	47.9%	35.7%	24.9%	34.3%
F 財務省の国立大学・収入構造改革の方針にそって、文部科学省が出した試算では、2031年（15年後）には国立大学の授業料は現在より約40万円近く値上げされ、年間約93万円になると言われている	85.4%	90.3%	89.1%	85.9%	76.0%	84.0%

（※）［青色］：項目の中で最も割合が高かった年代、［水色］：項目の中で２番目に割合が高かった年代

（３）奨学金に関する情報の認知（子どもの奨学金利用別）【Ｑ１１】

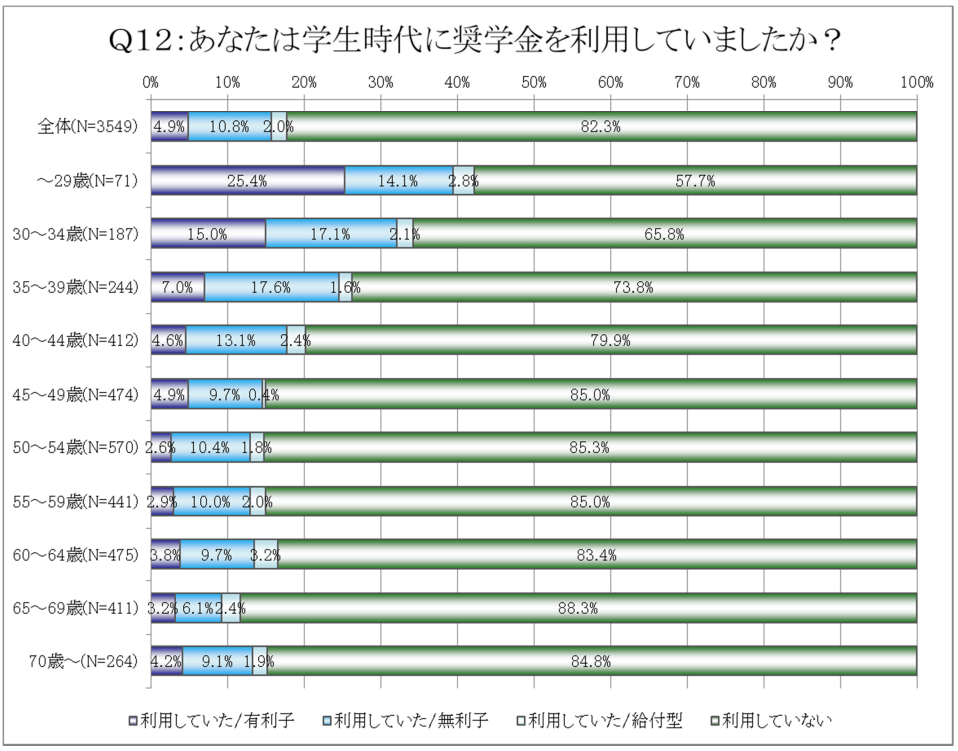
奨学金に関連したＡ～Ｆの認知を子どもの奨学金利用別にみると、各項目とも、「子どもが奨学金を利用している」とした回答者で「知っている」と回答する割合が多い傾向にあった。特に、Ｂ「現在、大学生の約半数が奨学金を利用している」とＣ「奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない」は、子どもが奨学金を利用している（していた）回答者の方が、そうではない回答者と比べて「知っている」と回答した割合が 20%以上高くなっている。



３．親本人（回答者）の奨学金

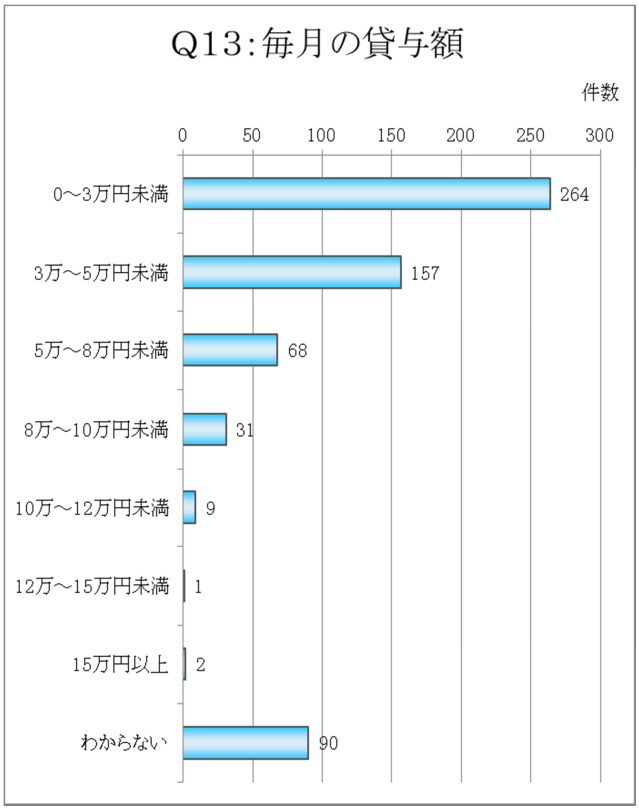
（１）親本人（回答者）の奨学金の利用（年代別）【Ｑ１２】

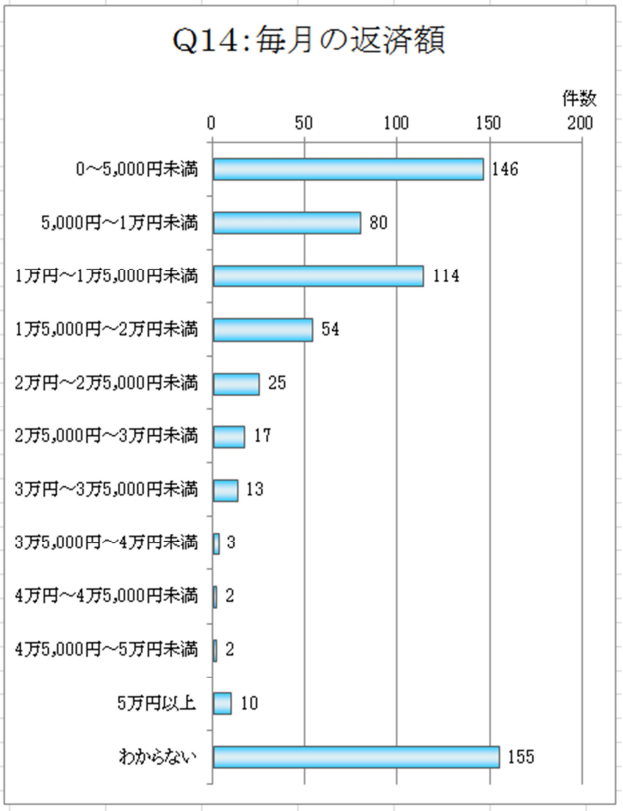
親本人（回答者）の奨学金の利用状況をみると、全体で約 18%が奨学金制度を利用していた。年代別にみると、34 歳までの利用者は３割を超えている一方、45 歳以上の利用者は２割おらず、年代によって大きく差があった。また、年代が若いほど奨学金の利用が多い傾向にあった。



（２）親本人（回答者）の毎月の貸与額と返還額【Ｑ１３、Ｑ１４】

親本人（回答者）の毎月の貸与額は、３万円未満が最も多かった。また、毎月の返済額は、5000 円未満が最も多く、１万～1 万 5000 円が次いで多くなっていた。

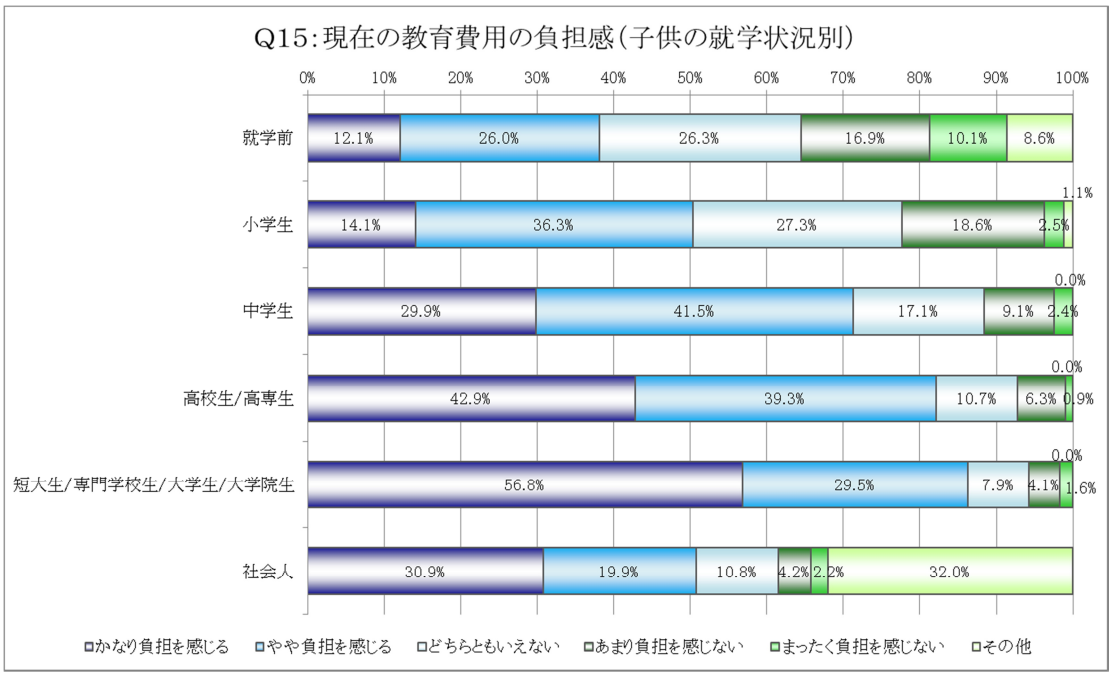




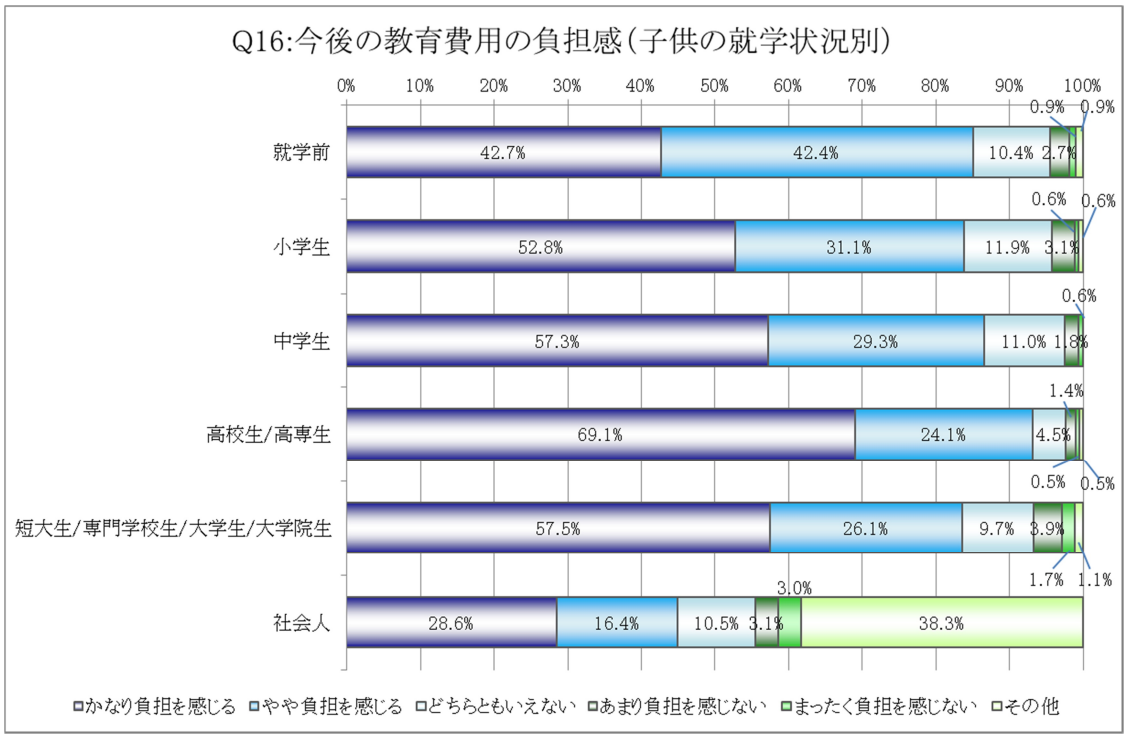
４．子どもの教育費に関する意識

（1）子どもの教育費用の負担感　現在と今後（上の子の学年別）【Ｑ１５、Ｑ１６】

現在の子どもの教育費用の負担感を上の子の学年別にみると、学齢が上がるほど負担を感じる傾向にあった。特に、上の子が「高校生／高専生」および「短大生／専門学校生／大学生／大学院生」の場合、「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」をあわせると、80%を超える人が負担を感じている。

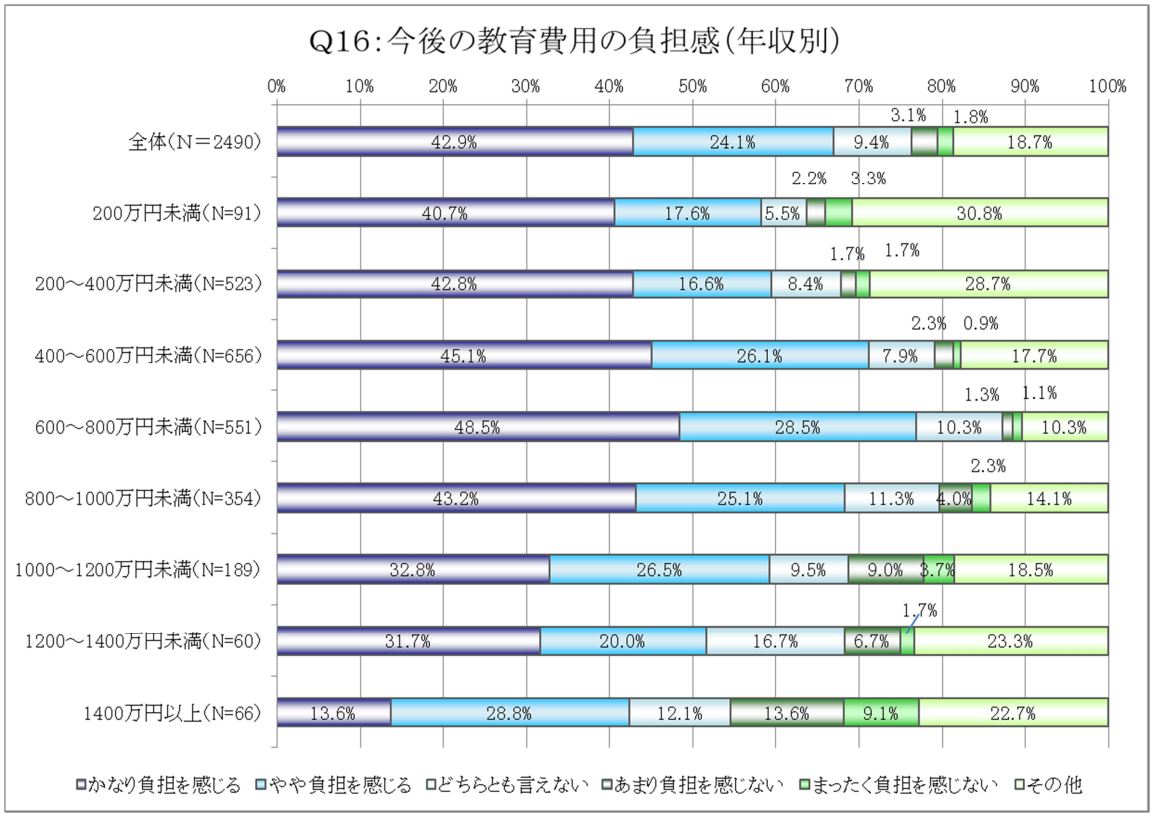


今後の子どもの教育費用の負担感を上の子の就学状況別にみると、「就学前」～「短大生／専門学校生／大学生／大学院生」では、「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」をあわせて 80%を超えている。特に、上の子が「高校生／高専生」である回答者は「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」をあわせると 90%以上が負担を感じているという結果となった。



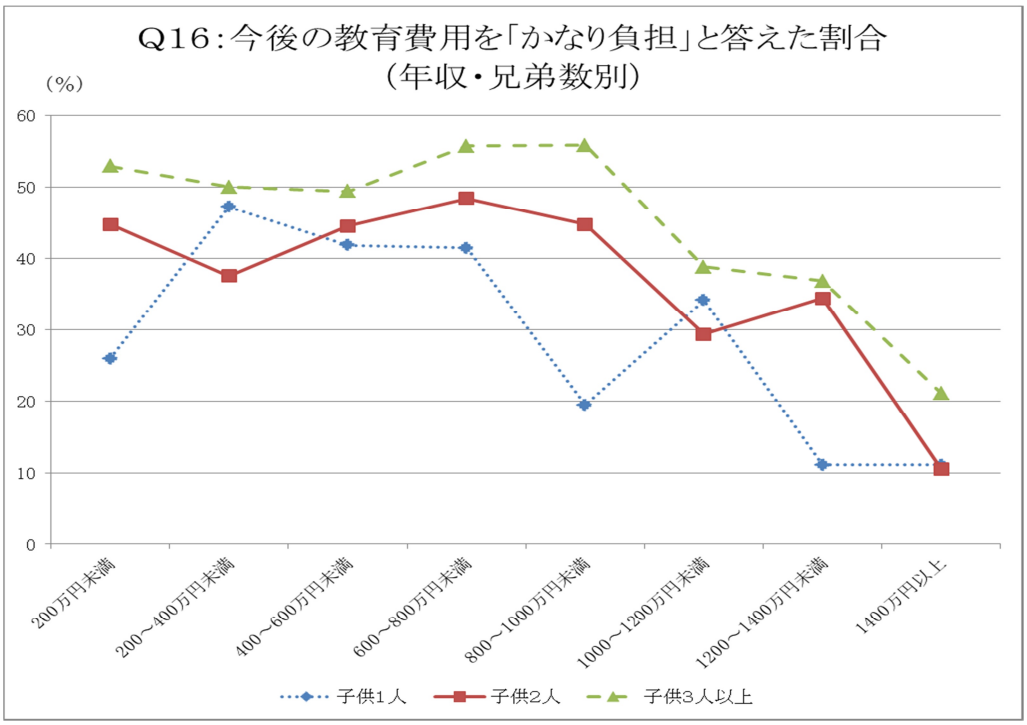
（２）今後の子どもの教育費用の負担感（年収別）【Ｑ１６】

今後の子どもの教育費用の負担感を年収別にみると、1000 万円未満では「かなり負担を感じる」が 4 割以上となっている。特に、600～800 万円未満での負担感が最も高かった。1000 万円以上になると、負担を感じる人が段階的に少なくなっていた。



（３）今後の子どもの教育費用の負担感（年収、兄弟数別）【Ｑ１６】

今後の子どもの教育費用の負担感について、年収に加え兄弟数も掛け合わせた。子どもの数が多くなるほど、年収が高くても「かなり負担を感じる」と答える割合が高くなる傾向にあることがわかった。



（４）将来の子どもの教育費（年収別）【Ｑ１７】

将来の子どもの教育費に対する考え方を年収別にみると、年収 400 万円以上では、「進学費用の貯蓄をしておく」を選択する回答の割合が多かった。一方で、年収が 400 万円未満だと、「奨学金を利用する」が多くなっていた。また、1000 万円を超えると「月々の収入でやりくりする」と回答する割合が増加する傾向にあった。

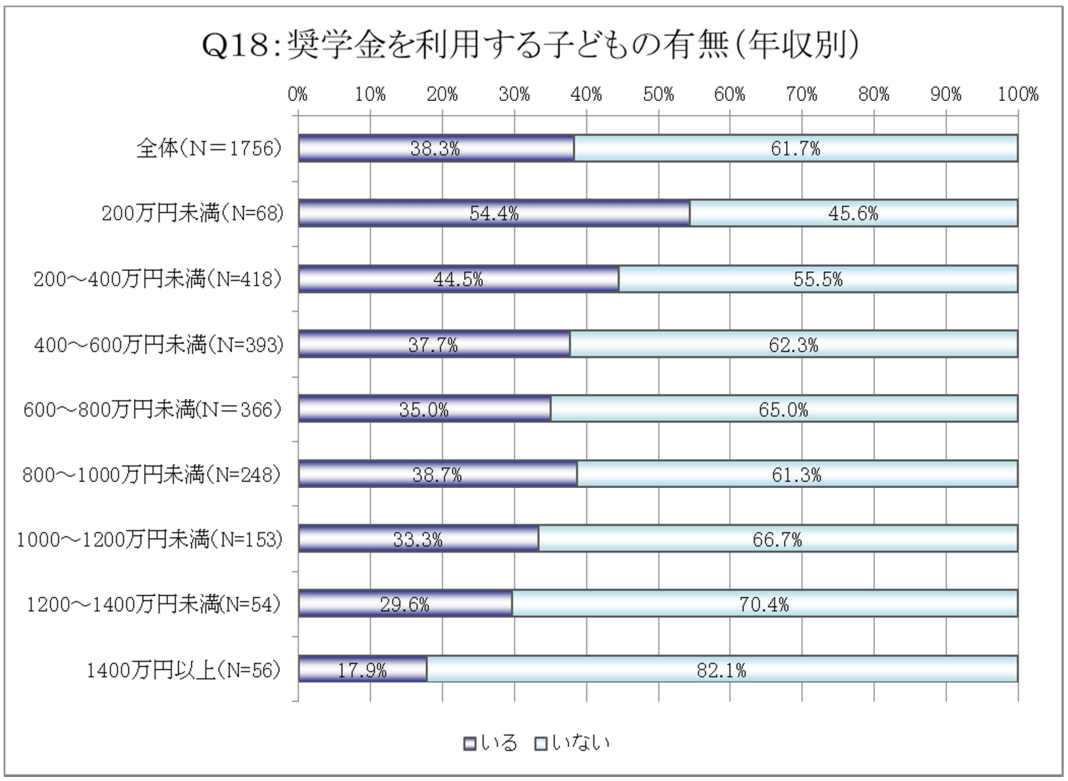
Q17：将来の子どもの教育費について、どうまかなうか
（年収別、当てはまるもの 2 つまで）

	月々の収入でやりくりする	奨学金を利用する	教育ローンを借りる	学資保険などに加入する	進学費用の貯蓄をしておく	親･親族の援助を受ける	その他	まだ考えていない
200万円未満 (N=43)	20.9%	30.2%	0.0%	16.3%	18.6%	2.3%	4.7%	7.0%
200～400万円未満 (N=295)	18.0%	24.4%	4.4%	19.7%	20.3%	5.8%	3.1%	4.4%
400～600万円未満 (N=596)	21.0%	16.6%	2.9%	23.8%	28.7%	2.2%	1.5%	3.4%
600～800万円未満 (N=504)	24.2%	15.1%	3.0%	21.2%	31.2%	1.8%	1.2%	2.4%
800～1000万円未満 (N=298)	25.2%	13.4%	0.3%	23.2%	33.9%	2.0%	1.3%	0.7%
1000～1200万円未満 (N=100	36.0%	7.0%	1.0%	17.0%	35.0%	3.0%	0.0%	1.0%
1200～1400万円未満 (N=23)	30.4%	0.0%	0.0%	17.4%	43.5%	4.3%	4.3%	0.0%
1400万円以上 (N=30)	36.7%	3.3%	0.0%	20.0%	33.3%	0.0%	3.3%	3.3%

５．子どもの奨学金の状況

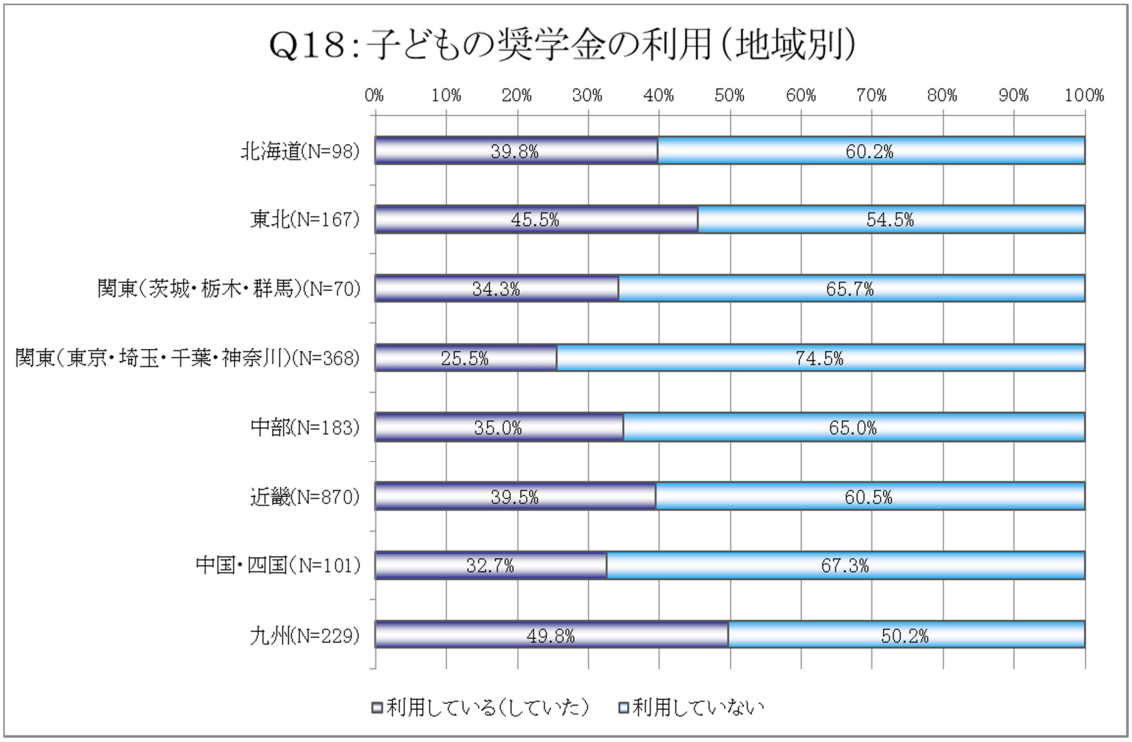
（１）奨学金の利用（年収別）【Ｑ１８】

子どもの奨学金の利用状況は、全体で約 38%となった。年収別にみると、年収が低いほど利用する割合は増加傾向にあり、200 万円未満では半数を超えて利用されていた。一方で、1200 万円以上では３割を下回っていた。



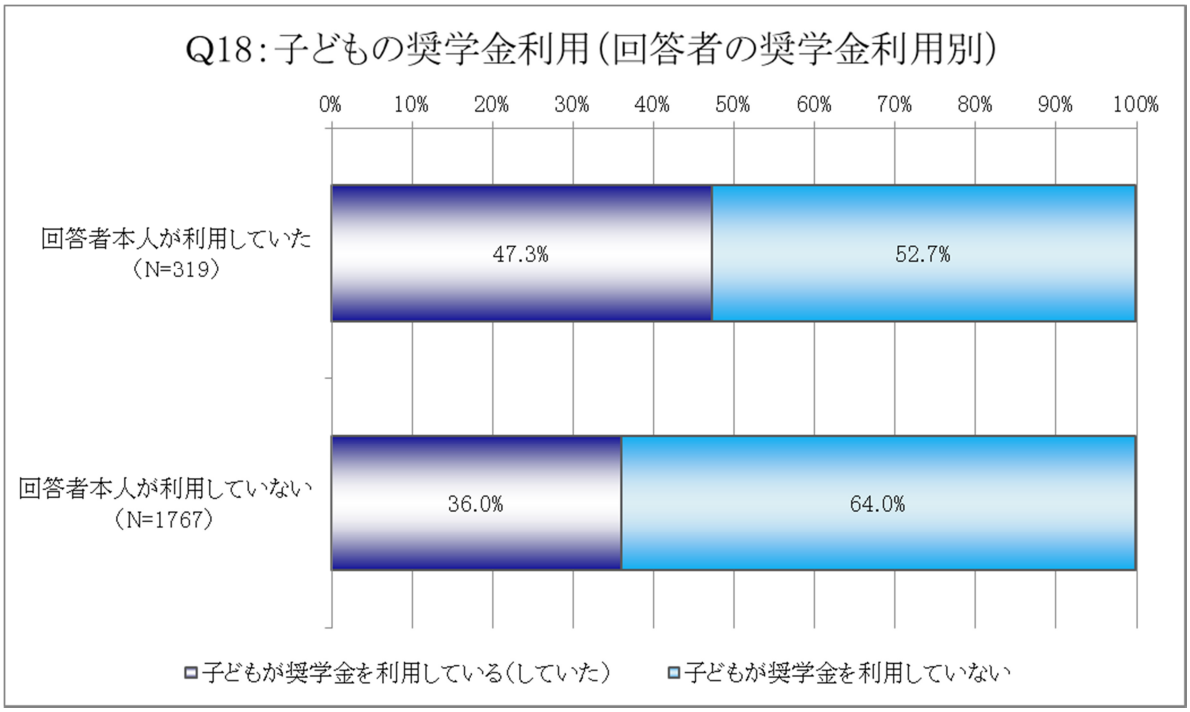
（２）子どもの奨学金の利用（地域別）【Ｑ１８】

子どもの奨学金の利用を地域別にみたところ、地域間格差が大きく見られた。首都圏（東京・埼玉・千葉・神奈川）では奨学金利用の割合が 25%程度である一方、九州では約半数が奨学金を利用していた。



（３）子どもの奨学金の利用（回答者（本人）の利用別）【Ｑ１２、Ｑ１８】

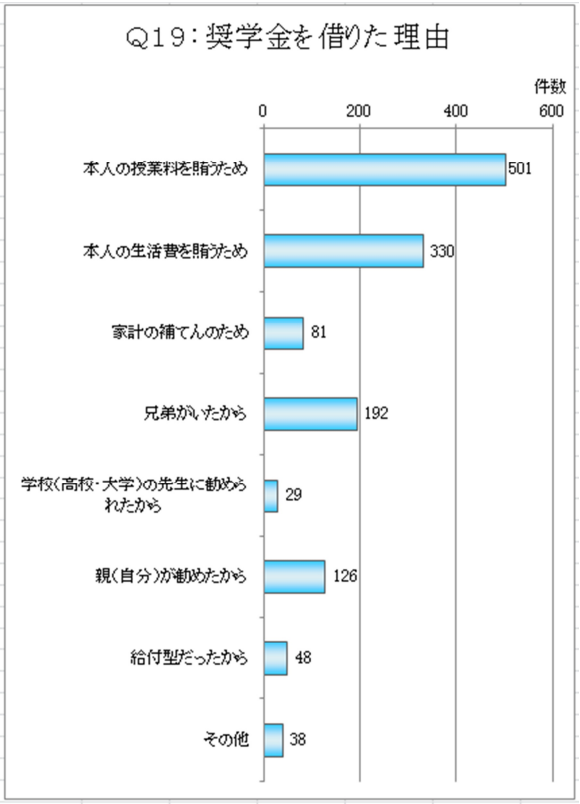
子どもの奨学金の利用状況を、回答者（本人）の奨学金利用別に見たところ、回答者本人が利用していた方が子供も奨学金を利用する傾向にあることがわかった。

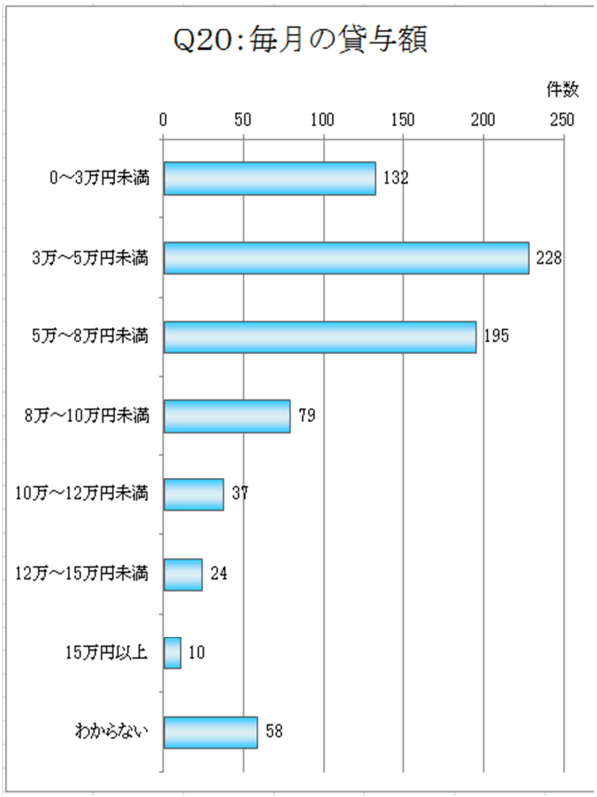


（４）奨学金を借りた理由と毎月の貸与額【Ｑ１９、Ｑ２０】

子どもが奨学金を借りた理由は、「本人の授業料を賄うため」が最も多く、「本人の生活費を賄うため」が２番目に多かった。

子どもの毎月の奨学金の貸与額は、「３万～５万円未満」が最も多く、「５万～８万円未満」が２番目に多かった。少数ではあるが、「１５万円以上」借りている人もいた。





６．自由記入「奨学金制度などへのご意見・お考え」【Ｑ２１】

回答者 3,549 人のうち、自由記入欄には 1,864 人（52.5%）の方が何らかのご意見・お考えを記入されていました。こうした調査で、これだけ多くの方が自由記入欄に記入をされるのは、極めてまれなことで、関心の高さが伺えます。ここでは、特徴的な声をご紹介します。

【給付型奨学金への要望】

・親の収入要件を厳格にした上で、本当に勉強をしたいけれど経済的に困難な人には、給付型奨学金などの手を差しのべてあげる施策も必要だと思う。
・諸外国のようにしっかりと勉強しないと、卒業できないような制度なら給付型の奨学金もよいと思う。税金を使うのなら、有意義に使ってほしい。
・優秀かつ経済的に困難な場合、給付型の奨学金を公的にご検討いただきたい。
・教育は世の中すべての人のためになります。国が教育にもっと力を入れて、教育を受けたい人が幾つになっても、いつでも教育を受けられるようにしてほしいと思います。そのための給付型の奨学金を望みます。

【無利子奨学金への要望】

・奨学金はすべて無利子か返済の必要のないものにすべき。
・給付が無理なら、せめて無利子の奨学金を希望者には皆貸してほしい。
・家庭状況に応じた奨学金額の貸与と無利子の長期返済などを無理なく組み込んではどうでしょうか。
・高校三年生の息子が、進学にあたり奨学金の申請をしました。そうして初めて奨学金の中身などを知りましたが、無利子の奨学金はほとんどの子が利用できず、利子も高い事に驚きました。借りたものを返すのは当然の事ですが、せめて利子をもう少し下げる、無利子の奨学金の幅を広げるなどしてほしい。

【より良い奨学金制度にしてほしい】

・借りた物は返すのが当然です。でもいろいろな理由で返せなくて、それどころか返すのに必死で、その人の素晴らしい才能まで奪ってしまうことは、この国の財産をなくすことと同じなのではと思います。学びたいと思う気持ちを奪わない様な、そんな奨学金制度になってほしいです。
・借りたものは返さなければならないが、就職難などでまともな職業につけない人もいる。出世払い的な方法で返済期間の猶予など、返済しやすい方法にしてほしい。

【自分や配偶者が返済している】

・現在、夫婦で合わせて 800 万近くの奨学金の返済があり、月々5 万円の返済はなかなか苦しいものを感じている。しかし、大学に行かねば就職口もなかった世代であり必要経費だったと思う。
・自分で奨学金を借りましたが卒業しての返済は精神的にしんどかったです。結婚の際に 300 万円位の返済があることを相手に伝え理解してもらう事も精神的に負担を感じました。特に出産を理由に働けなくなる時の返済をどうするか、結婚相手にお願いしなくてはいけないのは正直嫌な気持ちでした。

【親も返済を負担している】

・給料が安く、本人が返すのは無理なので、親が返している。

・私（61 歳）国立大、主人（66 歳）公立大の頃は現在に比べ学費は少なく奨学金の必要はなかった。息子 2 人（30 代）は 2 人とも私立大で自宅通学だったが家計の教育費の負担は大きかった。特に 2 人が同時に在学中、下の息子の時学費以外（アルバイトをしている暇がなく）のために奨学金（有利子）を 1 カ月 5 万円で 4 年間借りた。現在もまだ後 10 年ほど親が返している。もうすぐ年金のみになるので負担に感じる（月 15000 円弱）息子は現在家庭を持ち 2 人の子供、奥さんも奨学金返済があり余裕がないので親が負担しています。孫たちももっと学費があがる予定となると将来不安ばかりで気持ちが暗くなります。

・下の子が奨学金をもらっていたが、返す時に利子が非常に高く（理解していたつもりでしたが）社会人になってすぐの人には負担が大きいと感じた。今は低金利なのに・・・。親である私たちが立て替えて払った。

【兄弟が多く教育費の負担が大きい】

・兄弟姉妹と学校在学期間が重なるため、産まれた時から大学に入る予定で貯蓄をしてきたが、奨学金も借りていかないと学費だけでなく親元を離れて生活しなければならず金額がかさむ。

・兄弟が多い家庭は教育費の工面が大変です。子どもが多い家庭には優遇があるといいと思います。

・来春兄弟共に卒業ですが、クラブなどもしていたので、余りバイトができず、奨学金に頼って就学した。就職も決まったが、返済は月々3 万程になる。本人だけに返済させるのは、かわいそうなので、助けて行こうと思うが、二人へ 5〜6 万負担となると、定年の主人やパートの私は、きっと老後破綻するのではと、不安になる。

【高い学費・授業料】

・借りた物は返すのが当たり前だけど、そもそもの学費がもっと安くなればとてもありがたい。

・学費が高いのが問題だと思う。

・大学の授業料が、昔に比べてかなり高くなっていると感じる。親の収入で、子供の進路が狭くならないようにと、プレッシャーを感じている。

・高校では授業料以外に思いのほかかかり、大学でも入試費用から授業料など高すぎる。

・授業料が高額なので奨学金の貸与額が高額になり、子ども本人が返却するのは負担が大きすぎる。奨学金を借りないで親が授業料を負担するのも家計を圧迫し、親の老後資金を危うくしてしまう。

・国立大学はもっと安いのかと思っていました。国立大はもっと安くても良いと思う。

・日本は教育費にお金がかかりすぎます。大学の授業料の高いことは知られていますが、そこにたどりつくまでに高校、塾の授業料などかなりの費用を親は負担しています。これでは若い世代が子供を一人以上持つことをためらうのは当然です。国には教育費の軽減、奨学金の無償化などを実施してもらいたいです。

「教育費や奨学金制度に関するアンケート」調査票

教育費や奨学金制度に関するアンケート

近年、世帯年収が減少傾向にある一方で、子どもにかかる教育費は増加傾向にあります。お子さんがいらっしゃるご家庭では、子どもの教育費に頭を悩ませている方も多いのではないでしょうか。

また最近、大学などへの進学・在学時に利用する奨学金をめぐって、返済が難しいため自己破産する、奨学金の返済があるために結婚をためらうなど、社会的な問題になっています。

生協（コープ）では、組合員の皆さんが普段、お子さんの教育費に関して感じていることや、奨学金に関して思うこと、奨学金がどれほど利用されているのか、 その実態を明らかにするために、「教育費や奨学金制度に関するアンケート」を実施することにしました。

このアンケートは、日本生協連で集計し、結果を社会的に公表して、奨学金制度改善の取り組みに役立たせていただきます。

下の「回答する」のボタンを押して、アンケートへの回答をお願いします。

質問は最大で21問、ご回答の目安時間は約15分です。
回答期間は、11月30日（水）までです。

みなさまのご協力をお願いします。

（日本生活協同組合連合会の情報セキュリティと個人情報保護についてはこちら）

回答する

Copyright 日本生活協同組合連合会 All right reserved.

教育費や奨学金制度に関するアンケート

必要事項をご入力の上、「確認画面へ」ボタンを押してください。

みなさんご回答ください

Q１．性別を教えてください 必須

▽ 選択してください

１．女性　２．男性

Q２．あなたの年代を教えてください 必須

▽ 選択してください

１．24 歳以下　２．25 歳～29 歳　３．30 歳～34 歳
４．35 歳～39 歳　５．40 歳～44 歳　６．45 歳～49 歳
７．50 歳～54 歳　８．55 歳～59 歳　９．60 歳～64 歳
10．65 歳～69 歳　１１．70 歳～74 歳　１２．75 歳以

Q３．お住まいの都道府県を教えてください 必須

▽ 選択してください

Q４．子どもの有無と人数を教えてください 必須

▽ 選択してください

１．　いる／1 人　２．いる／2 人　３．いる／3 人
４．いる／4 人以上　５．いない

Ｑ４で「いる」を選択した方はご回答ください。「いない」を選択した方はＱ６に進んでください

Ｑ５．あなたの一番上のお子さんの学年を教えてください

▽ 選択してください

１．就学前　２．小学生　３．中学生　４．高校生／高専生
５．短大生／専門学校生／大学生／大学院生　６．社会人　７．その他

Ｑ６．世帯全体でどのくらいの年収（税込）がありますか。 必須

▽ 選択してください

1．200 万円未満　2．200～400 万円未満　3．400～600 万円未満
4．600～800 万円未満　5．800～1000 万円未満　6．1000～1200 万円未満
7．1200～1400 万円未満　8．1400 万円以上　9．答えたくない

ここからは、教育費や奨学金制度についておうかがいします。

※国立大学（標準）の年間授業料は53万5800円、入学金は28万2,000円です。
私立大学文系（平均）の年間授業料は74万6,123円、入学金は24万2,579円です。
私立大学理系（平均）の年間授業料は104万8,763円、入学金は26万2,436円です。

Ｑ７．国公立大学の学費（授業料、入学金など）は高いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。 必須

▽ 選択してください

１．そう思う　２．ややそう思う　３．あまりそう思わない
４．全くそう思わない　５．わからない

Ｑ８．国公立大学の学費は、国や自治体ではなく、学生やその親が負担すべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。 必須

▽ 選択してください

１．そう思う　２．ややそう思う　３．あまりそう思わない
４．全くそう思わない　５．わからない

Ｑ９．私立大学の学費（授業料、入学金など）は高いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。 必須

▽ 選択してください

１．そう思う　２．ややそう思う　３．あまりそう思わない
４．全くそう思わない　５．わからない

Q１０．私立大学の学費は、国や自治体ではなく、学生やその親が負担すべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。 必須

▽ 選択してください

１．そう思う　２．ややそう思う　３．あまりそう思わない
４．全くそう思わない　５．わからない

Q１１．現在、奨学金に関連して以下のことが指摘されています。ご存じでしたか。 必須

	知っている	知らない
A　先進諸国の中で、大学の学費が高額で、かつ公的な給付型奨学金（返済する必要がない奨学金）制度がないのは日本だけである	○	○
B　現在、大学生の約半数が奨学金を利用している	○	○
C　奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない	○	○
D　奨学金が返済できない場合、親や親類に返済義務が及ぶことがある	○	○
E　理系学部の大学生は約3～4割が大学院に進学、6年制の薬学部、大学卒業後さらに2~3年の法科大学院など、大学以降の在学期間は4年標準ではなくなり、6～7年へと長期化が進んでいる	○	○
F　財務省の国立大学・収入構造改革の方針にそって、文部科学省が出した試算では、2031年（15年後）には国立大学の授業料は現在より約40万円近く値上げされ、年間約93万円になると言われている	○	○

Q１２．あなたは、学生時代に奨学金を利用していましたか。 必須

▽ 選択してください

１．利用していた／有利子　２．利用していた／無利子
３．利用していた／給付型　４．利用していない

Q１２で「利用していた」と回答した方はご回答ください。「利用していない」を回答した方は、Q１５へ進んでください

Q１３．毎月の貸与額はどの程度でしたか。

▽ 選択してください

１．0～3 万円未満　２．3 万～5 万円未満　３．5 万～8 万円未満
４．8 万～10 万円未満　５．10 万～12 万円未満　６．12 万～15 万円未満
７．15 万円以上　８．わからない

Q１４．毎月の返還額はどの程度でしたか

▽ 選択してください

１．0 円～5,000 円未満　２．5,000 円～1 万円未満　３．1 万円～1 万 5,000 円未満
４．1 万 5,000 円～2 万円未満　５．2 万円～2 万 5,000 円未満
６．2 万 5,000 円～3 万円未満　７．3 万円～3 万 5,000 円未満
８．3 万 5,000 円～4 万円未満　９．4 万円～4 万 5,000 円未満
１０．4 万 5,000 円～5 万円未満　１１．5 万円以上　１２．わからない

お子さんがいる方はご回答ください。いらっしゃらない場合は、Ｑ２１に進んでください

Ｑ１５．現在のお子さんの教育費用の負担をどのように感じますか。あてはまるものを１つ選んでください。

▽ 選択してください

１．かなり負担を感じる　２．やや負担を感じる　３．どちらともいえない
４．あまり負担を感じない　５．まったく負担を感じない　６．その他

Ｑ１６．今後のお子さんの教育費用の負担をどのように感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

▽ 選択してください

１．かなり負担を感じる　２．やや負担を感じる　３．どちらともいえない
４．あまり負担を感じない　５．まったく負担を感じない　６．その他

中学生以下のお子さんがいる方はご回答ください。いらっしゃらない場合は、Ｑ１８に進んでください

Ｑ１７．将来、お子さんが進学する場合の教育費について、どのように考えていますか。主に考えているものを２つ以内で選んでください。

- ☐ 月々の収入でやりくりする
- ☐ 奨学金を利用する
- ☐ 教育ローンを借りる
- ☐ 学資保険などに加入する
- ☐ 進学費用の貯蓄をしておく
- ☐ 親・親族の援助を受ける
- ☐ その他
- ☐ まだ考えていない

大学や大学院に通う（通っていた）お子さんがいる方はご回答ください。いらっしゃらない場合は、Ｑ２１に進んでください

Ｑ１８．あなたのお子さんのうち、奨学金を利用している（していた）お子さんはいますか。

▽ 選択してください

１．いる　２．いない

Ｑ１８で「いる」と回答した方はご回答ください。「いない」を回答した方はＱ２１へ進んでください

Ｑ１９．お子さんが奨学金を借りた理由は、以下のどれですか。以下の中から、主なものを3つ以内で選んでください。

- ☐ 本人の授業料を賄うため
- ☐ 本人の生活費を賄うため
- ☐ 家計の補てんのため
- ☐ 兄弟がいたから
- ☐ 学校（高校・大学）の先生に勧められたから
- ☐ 親（自分）が勧めたから
- ☐ 給付型だったから
- ☐ その他

Ｑ２０．毎月の貸与額はどの程度ですか（でしたか）。複数のお子さんが借りていた場合は、高い方の金額を教えてください。

▽ 選択してください

１．0～3 万円未満　２．3 万～5 万円未満　３．5 万～8 万円未満
４．8 万～10 万円未満　５．10 万～12 万円未満　６．12 万～15 万円未満
７．15 万円以上　８．わからない

Ｑ２１．奨学金制度などに対して、ご意見やお考えなどがありましたら、自由にお書き下さい

確認画面へ

Copyright 日本生活協同組合連合会 All right reserved.